

EXPLANNER/Ai 導入事例

株式会社丸美屋フーズ 様

ロット管理/トレース体制を短期間で実現。 データ活用支援機能を売上拡大に活かす

業務向け加工食品を製造・販売する株式会社丸美屋フーズ様。同社ではシステム老朽化をきっかけに、将来を見据えた基幹業務システムを構築するために、NECのERPソリューション「EXPLANNER/Ai」を導入しました。

その結果、主な目的であるトレーサビリティ体制を短期間で実現。さらには全社的な情報共有・活用や、戦略的なデータ活用にも貢献するものと見込んでいます。



株式会社丸美屋フーズ
管理本部長 取締役 総務部長
片桐 重義 氏



株式会社丸美屋フーズ
総務部 係長
都築 太郎 氏

課題と成果

- システム老朽化にともない、既存システムを継承しつつ、処理速度などのパフォーマンス向上を図る必要がありました。
- これまでも最重点課題と考えていた、食の「安全・安心」をさらに高めるために、ロット管理/トレーサビリティ体制の確立が求められていました。
- 既存顧客をしっかりと維持しつつ、新規顧客層の開拓も効率的に行えるよう、商品や営業に関わる情報をスピーディーに全社で活用する情報基盤を必要としていました。
- ロット管理/ロットトレースの導入により、品質管理体制の強化ができました。
- 紙ベースの帳票やFAXから、電子データによる情報共有に切り替わったことで、データ共有がスピーディーかつ柔軟に行えるようになりました。また、クラウド上でのファイル共有サービスを利用することにより、拠点間での情報活用の利便性が上がりました。

従来から追求してきた 食の「安全・安心」をさらに高めるために

丸美屋食品グループの業務用部門会社として、「のりたま」「麻婆豆腐の素」などの業務向け加工食品を製造・販売する株式会社丸美屋フーズ様。同社では食の「安全・安心」を第一に、徹底した品質管理により、長年にわたってお客様からの信頼を得ています。ただ、その上で近年では、さらなる「安全・安心」をお客様に提供できるよう、商品の賞味期限をより細かく管理し、しかも、それらをロット単位で追跡できるような、トレーサビリティ体制の確立も不可欠になっています。同社の取締役総務部長として、業務システムの導入・運用においても中心的な役割を担う片桐重義氏は、システム老朽化にともなうリプレースを検討する際、こうした要件も同時に満たしたいと考えていました。

また、同社では業務向け商品を扱うという性質上、固定のお客様が主体となりますが、食品業界の競争が激化する中で、従来にもまして、既存顧客をしっかりと維持しつつ、新規顧客層の開拓も効率的に行えるような環境づくりが求められています。そのため、今回のリプレースには、営業を中心とした全社的な情報共有・活用の実現という狙いもありました。

業界に適した標準機能に加え、 データ活用などの新要素も高く評価

同社では、オフコンの時代に構築した基幹業務システムから何回かのリプレースを経て、旧バージョンのEXPLANNER/Aを稼働させていました。その環境で特に問題は生じておらず、従業員たちも使い勝手の面では非常に満足していたため、ハードウェアのみ入れ替えて処理速度を改善し、ソフ

株式会社 丸美屋フーズ

社 名：株式会社丸美屋フーズ
本 社：〒350-0253 埼玉県坂戸市北大塚128-2
代表者氏名：代表取締役社長 阿部達夫
設 立：1979年(昭和54年)11月
株 主：丸美屋食品工業株式会社(100%)
事業内容：業務用向けにふりかけ、麻婆豆腐の素、釜めしの素、みそ汁をはじめとする加工食品の製造および販売



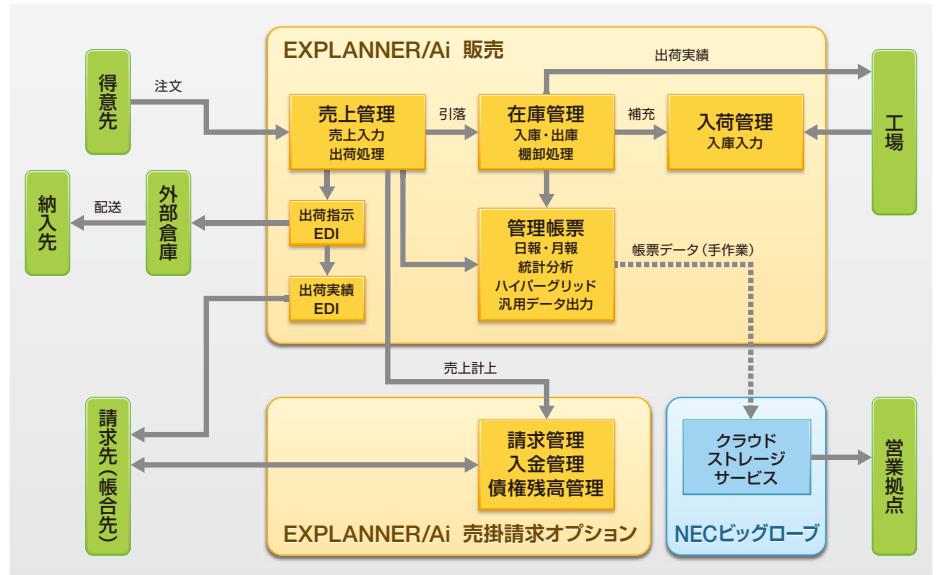
トウェアに関しては再インストールという選択肢も十分にあったと言います。しかし、片桐氏は、「リプレースの際には常に次の1年、2年、さらにはそれ以降のビジネス動向を見越して計画を立てる」ことを心がけており、今回もそうした視点で入念な検討が行われました。

「最終的には、EXPLANNER/Aの使い勝手のよさをそのまま継承しつつ、ロット管理や賞味期限対応といった部分で最新機能を導入できるということが大きな決め手となりました。新しい要素が積極的に取り込まれているという点も評価しています」と片桐氏は述べています。その中でも「残高→明細→伝票などへのドリルダウン、ソート、文字列検索などに対応したデータ活用機能“ハイパーグリッド”が搭載されており、日々登録される伝票などのサマリ/明細情報のデータ分析・データトレースが行えるため、うまく活用できれば、営業や経営に活かせる情報を容易に導き出せる」という点が特に重要なポイントとなりました。

EXPLANNER/Aiの 販売管理+売掛請求をベースに クラウドストレージを情報共有に活用

同社が導入したNECのERPソリューション「EXPLANNER/Ai」は、パッケージ標準機能に請求管理/入金管理/債権残高管理を行うための売掛請求オプションを加えたもので、社外システムとはEDIで連携しています。また、全国各地の営業拠点とのデータ連携に関しては、高いセキュリティ環境のオンラインストレージ上でのファイル共有・転送が可能なBIGLOBEクラウドストレージサービスを活用しています。同社総務部係長の都築太郎氏は、「従来は、本社・各拠点間の帳票のやりとりはFAXや郵送といった紙ベースが主体でしたが、クラウド上でのファイルベースへと切り替わったことで、印刷・郵送などのコスト削減に加え、データ共有がスムーズかつ柔軟に行えるようになり、データ加工・編集の必要が生じた際にも、迅速な対応が可能になりました」と述べています。

● 導入イメージ



トレーサビリティ体制を短期間で 構築しつつ、コスト削減にも寄与

同社は以前からEXPLANNERシリーズが、食品業界での利用を考慮されていると評価していました。例えば、1円未満の単価設定・計算にもしっかりと対応している点などが挙げられます。また、商品の製造元である丸美屋食品工業様では、すでにロット管理を導入しており、伝票にも記載されていましたが、これまでは本社側ではシステム上への入力ができませんでした。そのため、万が一、製造不良などが発生した際に、同じ工場・製造日時につくられた商品をどの納入先に納めたかを確認するためには、紙の伝票を手作業でチェックしていく必要があったのです。今回のリプレースでは、別々で扱っていた商品管理コードなどもすべて統一し、ロット管理を実現したことで、「いつどこで製造した商品が、どこに納められているか」が、素早く簡単にわかるトレーサビリティ体制が構築でき、結果として品質管理体制の強化、帳票のやりとりに要していたコストの削減につながっています。導入に当たっては、NECの営業担当者やSEが食品業界の知識やノウハウを持っており意思疎通が容易で、スムーズに作業が進みました。

ハイパーグリッド機能に関しては、今後、営業部門での売上促進ツールとしての活用を見込んでいますが、EXPLANNER/Aiのもう一つの情報活用支援機能である汎用データ出力機能も有用だと片桐氏は実感しています。これは蓄積されたデータから簡単に必要な部分のみをCSV形式で書き出せる機能で、使い慣れたExcelなどへ簡単に読み込んでデータのグラフ化や集計が可能のため、面倒な作業や高度な知識を必要とせずに、情報活用が可能になったからです。

戦略的なデータ活用に役立てることで 売上拡大にもつなげたい

同社では、ハイパーグリッド機能や汎用データ出力機能は、実際に全員が使うようになるにはもう少し時間がかかると見ていますが、少なくとも、現場の社員たちが自らデータ分析・活用を気軽に行える環境が整ったととらえています。片桐氏は、その上で「この部分に関しては、特に追加コストはかかっていないわけですが、営業支援における大きな効果が見込まれますし、営業部門にはしっかりと計画を立てて、売上につなげてほしい」と期待を寄せています。

NEC

NECネクサソリューションズ

本事例は、NECネクサソリューションズと連携してご提供しています。

お問い合わせは、下記へ

NEC EXPLANNER部

TEL: 03(3798)6844 FAX: 03(3798)7169

URL: <http://www.nec.co.jp/explanner/>

●本カタログに記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
●このカタログの内容は改良のため予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承下さい。
●本製品(ソフトウェアを含む)が、外国為替および外国貿易法の規定により、輸出規制品に該当する場合は、日本国外に持ち出す際に日本国政府の輸出許可申請等必要な手続きをお取り下さい。
詳しくは、マニュアルまたは各製品に添付しております注意書きをご参照下さい。